

危険ドラッグは「ダメ。ゼッタイ。」！

—築館中学校との取組み事例紹介—

北部保健福祉事務所栗原地域事務所 食品薬事班 ○技師 鈴木理代

Key words: 危険ドラッグ, 薬物乱用防止, 教育

I はじめに

本県では県内の小中高校の児童生徒に対し、薬物乱用防止教室等とおして薬物乱用未然防止の推進を行っている。その取組みの一環として今回当所と築館中学校が協同で行った事例について報告する。

II 活動内容

栗原市立築館中学校の生徒及び教諭が危険ドラッグ等薬物乱用問題について関心を持ち、当所へ取材に訪れた。取材対応や意見交換をおして薬物乱用防止を啓発し、取材対応時の様子を元とした視聴覚教材DVDの作成を生徒と協同で行ったもの。

事業期間：平成26年7月から平成27年1月

(平成26年4月 薬物乱用防止教室開催依頼の発出)

平成26年7月 築館中学校からの取材依頼

8月 取材対応・意見交換

10月 文化祭発表用DVD作成協力依頼

DVD原稿・音声データ作成

10月 文化祭でのDVD上映

11月 視聴覚教材用DVDとしての完成に向けた内容の精査と修正協力

平成27年1月 視聴覚教材コンクール出品（予定）

III 考察

- ・制作に携わった生徒は、シナリオを作り、教材としてまとめあげる過程で、薬物乱用問題について自ら調べ・学習することにより、生きた知識として身に付けることが出来た。
- ・その他の生徒は、クラスメイトが制作・出演するDVDに対して興味関心を持ち、薬物乱用問題を身近な社会問題としてとらえやすくなった。また、生徒目線で作成された薬物乱用防止啓発DVDが文化祭で上映され、さらに視聴覚教材コンクール出品により多くの人に対して啓発することが出来た。
- ・オリジナル視聴覚教材DVD「薬物乱用？NOでしょ！」は次年度以降の授業でも活用されることとなった。
- ・保健所と学校側の密なやりとりで時間を要する等、他の学校等でも同様の取組みを進めるには、課題があると考えられた。

IV 結論

この事例をおして生徒が自ら参画する手法は高い啓発効果があることが明らかとなった。教育現場には薬物乱用防止教育に係る様々な需要があり、生徒や教諭とともに取り組んでいける態勢を推進し青少年の薬物乱用防止を図りたい。

VI 引用・参考文献

- 1) 宮城県薬物乱用対策推進本部（平成26年3月）宮城県薬物乱用対策推進計画第4期～「薬物乱用のないみやぎ」に向けて～
- 2) 宮城県、宮城県薬物乱用対策推進本部（平成26年4月）薬物乱用防止指導員の手引き
- 3) 宮城県保健福祉部薬務課ホームページ (<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/yakumu/>)